

圖

之部

第  
一  
部  
冊  
號

一  
部  
冊

冊  
二

滋賀縣立職業中學校

奇  
大  
司  
下

1371  
vol 2

卷一

歌道大意下卷

弘  
義言著

天津師範

古秋のとひま

長野義言著  
堀内廣城校

書院  
衰の葉のももくももきことのうぐくひもづれを情分  
れあ草と多よせりがとくこども柄とぞよそへてつらむ  
色うれと身ひえすと。妹せのをとつととめやせう  
りんうとぞおありわよあくはきりゆけよよせ  
みゆうとくとて男と女と恨うらひするまじめうれ  
くとよかね神のとくの川よとくつてつてもよつて

まくゆくもありまくらにかの下にとまくもとて  
ねむ常夢はあしのとくとく事さうとくとく表さり。月を  
おぐの方のすゝえすみをと目より。夜の情とすまへてれど  
よろけのねのまえをとぐれり湯の馬とめくらめびどりとれ  
とふつけつ衣すがりとひもつづきのまよ。さそり  
さくと、うとく見てあられまくのをと  
朝やちとふあまきよん入づくとすハ云宿のゆく條  
情すれどさうかよまをひのづく哀と感やかくうき  
酒くふよる。体情とくみくられと感トタケラき  
ナヒカリぬ。わざと云はとそうき候。此れ敷ひよからぬ。

テハアラキとくよのまゆつてくひもとまね葉うれじ  
ほどもむとともうかうてがあんすて父業よすと  
のアラキときのひりのばや。ヨツモくもがく信  
のあくもくやふしもすのまくまく  
かてをじとくそとくやと處とあられひあと、カナ  
んと聚多くふくようとくとんとん声とさくとやうて情。公義  
のうのうれぞ。だの情とがまぶす。す故ん多くゑぐく  
うそ切とくゆるぐわからずとつづく。れす丈之大  
人の主と撰。今古今集の丁とスラうるのみでまんばの

○哥乃大意下

主ぬくらぶきうらうくとく

水のむりうれの、のまくらうとく

伊勢

うとけてもののくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あすけとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
え、めのうじのきくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
そろとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うかりとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

えたすとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
さりうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじうじ  
車とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あとねのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじ  
うじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじのうじ  
牛と首と首と首と首と首と首と首と首と首と首と首と首と首と  
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

やよせさんとおじとおじとおじとおじとおじとおじとおじとおじ

さうも月の物とあともやまんがてもどくやとえ  
タキアキアリ。もとまをは角ノ面つゝも公役にせりて曰く  
今や事んとニヤモ之のキハムと申してき一ゆくもうと  
ニニ尼カドテアス。とトマセラモ。ニニ尼ヒドヘカリ  
セハ尼カドテアス。とトマセラモ。ニニ尼ヒドヘカリ  
ヒミの秀色。ソブン。モトトマセラモ。ヒミの自ト  
ヒミの御の御。キハム。モトモ。ヒミの御。キハム。  
云ひ他人とさへもひかひうと。モニハニニ尼カドテル。モニ  
ニニニカドテル。モニハニニ尼カドテル。モニハニニ尼カドテル。

今とよくほこう。旅とをもれぬと。すすみと  
是まぐくからす。おどりとて。あきゆくらうりとて  
モト。公仕やる。今とめの夕と。あと。おと。人。地。れま。  
ゆ水と。きして。けせの。出。し。て。ゆ。車。や。そ。り。く。う。い。  
修。手。方。ゆ。り。ひ。り。く。う。い。ゆ。き。と。あ。ぐ。ち。き。う。  
俊惠。立。株。ニ。佐。俊。麻。那。の。す。ま。を。そ。り。し。つ。く。よ。出。保。  
平。え。う。き。と。ま。傳。し。き。り。と。そ。と。と。ひ。し。ふ。  
タ。れ。を。せ。び。秋。を。お。う。と。う。帰。う。と。う。の。里。  
も。う。ん。身。よ。か。て。あ。そ。と。ひ。う。と。う。と。う。と。う。

今うりと極れすすめにす。よもよまし。よきこと  
えきやまわせんそりせどく。自へ先のすゝみひく。  
伊豆とのむひしよ。今持てゐの二首も。後成のすく  
くよすたれをすば調つて。さうもう夜もえ。よふ  
こちりもきてとづくもひうどりで。とくの事。今う  
づれおよづくもあゆき。すみとひそくさんともと  
れのがきよきてとづくもひうとくとく。おのれのう  
そひそして衣へ。舞て。うひとうげとく。はまねりとく。おのれのう  
えよく。おひき。おひき。おひき。おひき。おひき。おひき  
従者ひしり人を。人のすしと。暮ひ。まくらの風と。あひし

森すすのすゞづか。わい。がるもの。すくと。すくと。すくもの。す  
くと。すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。  
すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。すくと。  
のめり。よし。寒。修。の。舞。び。く。の。歌。車。る。お。今。車。る。つ。だ  
わく。と。す。く。と。

古今集のすの他。ば。唐。よ。ぐ。て。ハ。と。く。ゆ。く。り。て。く。ぐ。よ。す  
。ふ。か。れ。と。常。り。ま。よ。く。今。と。の。た。二。と。要。て。後。ま。よ。み。よ  
く。よ。れ。ふ。ら。れ。よ。あ。き。よ。う。わ。り。移。く。よ。び。の。う。よ。う。よ  
か。よ。て。ま。よ。さ。よ。り。の。ト。け。き。と。を。の。う。よ。わ。り。よ。う。よ。う。よ。

ひ。二。首。よ。う。よ。う。よ。今。集。ほ。う。よ。ハ。後。撰。集。よ。う。よ。う。よ。う。よ。う。よ。

つすすらかまうりかどるまれりて。すくとあぐきよ  
ひとのあかるくせとトサカアホーきばがれうとん  
さやしもじう。ひたすら情すくひうす。まづまむ  
のうんとつまくあると面おもてうり切よまでや  
く。うそかうんとするもとだれとあくせき。  
後撰するはこのものでさとうひくとつまうて、下けら  
きよきくとあくまつまほらひる餘情す。上のう  
の傷なる事だく。くをじえ

わがちよやちよふきんのつまくや若れます  
君か代きあくまびゆる薙れす。すくまく

け二首ともりふるもとつるは古今集の房代とつるハ拾玉集  
がうり。古今うへりうとくわくをまゆいれとつ  
よもと房代とつ。二もと房代のけ今くそぶし。  
捨ききはれかうく人うくりやさんと。ふとくらう  
被ひるれ御くまうの情をくわ。初も房代とつ房代  
もくわくく被ひるれきと。古今うとひて御きねけり。君くそ  
て情のすきとせり。とす。と手の物よもとうしも。たゞう  
るまくしりく古人の物あとは分づきう  
うふ鳥のつまき三羽れてうそばうととすとまわぬ

トニラ首上るるがりきよつてハ草庵原頬阿の言ひすすつゆ

シテハ雪玉集

西三條道巡  
院実應公

のう。まくとよみだらけぐれどり古今はすれま  
まやと今と面してえよだらけぐれどり古今はすれま  
うほ仰のり藤井高尚といふしもりさりがる附まよかつ  
アトケルとひ入る傳情うどりうそくとくアトケル  
まくはつきとく。なり後成をひととぞとひきうせとほせん  
草庵集を河内くい。ばめもすむ雪玉集の教ひとと  
さしきハ金ドナツはまくわく。三のじとたのとくねとおき。  
情ちくねき人のいたわゆきあくがいかれひ後世人のひきと  
ざくわくまくはまく。金トカまでハうまくとくわくとくわく。大珍

とまわろとあせてもんぬ

とよつれ故もんといんとテアハナ。けちうと常と常と常と常と常  
奇ハ多リ叶とつりとてくそくそくべきハ古今集の集のを故て  
玄蕃らくに活源りいへ。すとハトトくろる集くぢりとほせん  
親のくとくふかびて古今集の活とば解とあくとくちがゆうす  
えともうひうもとをなすりとてくろる古今集とよべつづれと  
えのうう古今の書ひとくもあくとくとく活やまくと  
修活うとくらのひうあんまくとくくわくけやまくからうと  
むての集のまくとくきとくとくとく活やまくかううと  
修活うとくらのひうあんまくとくくわくけやまくからうと

るうちりのじやうふ  
神いちくひとひーみれらわまどもひりのゆやくん  
そなれあよりまきーくらみてまえおれど  
もひきとまのまかでうさるう(神いちくひーく)、そと  
ひりのじでひてほけたうくまの裏背ーもく  
今うつら。そゆひつまうるうとおひへ立ちそくは、や  
まそむれせらしよくこへあそぶよつて  
そそりあらのうせらしよくこへ立ちそくは、  
てくまうつら。今うつらのみのゆよるとそくくつらん  
おうぬらもほげくちよしすくあうじゆううだのまろ

うきやふ春からうきうき時うきのくらとうくは、  
云ふうさわうれでやもがりうくらうす。の春は  
まくらだの春はもむくらうや吹風のあくづき  
うぬと日ち直タチいわとくうんとくうふ事とくわを  
すようきをうりうきううて、世とくうふ事とくわを  
うきのえくうみのううとくうう。君がまくら今やあ  
んとあうとまひ食とべ。ううのなまもとひ。ううあ  
まうとうぐとくうんとくとくうんをきけの薦までと  
りうんとかとくとくうんをきけの薦までと  
ううとううとくうんとくとくうんをきけの薦までと

うち後まわらうひとまつりておけむまくちを落て  
是が年事もあらうはのある。先もふうりり車、烟雲  
きよてもあらす漁舟<sup>告</sup>のあらうなが船<sup>告</sup>くらうと  
さんじてふきよまきてまわらうとまづてとひまか  
へづくとどかくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
へづくとどかくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
てもよとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
よとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
よとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
よとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
よとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>  
よとまづくとまづくはまよまきとづくとくさ。<sup>告</sup>

人ぞくとまづく居れどきえあはれと仰とあらう  
そとまづくらんのまづくはと消單だうせのあらう。もとまづ  
う時のまづくまづくするをつらべぬよあく。そのやととあ  
せらぐ。しをぬのらんへられで又まれゆりまくとれをあ  
金くとまづくもつらべてまづくやとあし。浦と  
くとまづくもつらべてまづくやとあし。浦と  
ものあとのまづくを改めやうんとやに。此集常例也。  
餘をとまづくと改めやうんとやに。一本の時もあらう  
有りりく詠歌ときひと。後撰集、春うとうすうよも山  
山消ゆね雪のそれともうじとつしり。拾う

様 わへし おへてるるあいへゆりねあとまへはりあつてん

ニタ却てハヤリきくよ。ナとキテヤハナムシ

アタマトコモニシテナムシとシヘラドリハナシ

ヤハテアムトコモニシテナムシとシヘラドリハナシ

キアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

カムルシカウリヤヒシテアスヒトシルカドリモテシムカハ

シテモ日代アヒトシルカドリモテアスヒトシルカハ

東平野のやのう合れど。 源ふ子鉄臣

常繁うまくのひりとるナレ今丁はのをまきり

リカレバとそぞろの福をあやきわへり。行てひをる

うとうもむれきをかへるせのゑすとさんかが  
キアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

シルアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

シルアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

みう花のきの枝うひにうちらひとつてアサヒ修無用

シテアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

アガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

セテアガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

モ用アガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

アガルミニシテハシトシルカドリモテシムカハ

して候立り。一首の事へもとまうるをひの役とすてりあつしむ  
く移ろひうち。角へ行秦ともゆきまよふ。づてせうかの  
そくうくうてあくほん。どくもとすくはなれり。されども  
一様の役とすてりゆきと。おもひのまくらがまくらを日替  
まくさうふきうち悔氣モカシとぞりふりのすりまく花を  
ちと見てうかがく去の日暮の間ムカシとおもひきつるをあ  
う。立並みうとすく  
四、五せよつまゆれまゆれて風カキのちよん  
えを被すのまくらかう。後世うのきにまよぐわねをと  
ひてふのまとまくらかう。小町よれすあまくまくすて先代

憂

一首ともてよし  
寛葉けぬ底の音のすい合のす  
生太岑

書くかくらひをあまく夏れとあまくやる山あくばん  
かくえのよのひやまくとくわくとくらうとまくら。  
かくも鶯トリをあれるまくらまくら。ゆとさばくわくゆと  
あまくらまくらん。そらくまくらまくら。れをまくら  
まくら。やくまくらまくらて東のめまきと情じまくら  
まくら。ゆとまくらまくらて秋のめまきと情じまくら  
かれのめまくらまくらをまくらまくらとまくら

そよき口ト音のうとく是るん角ふわよ。序よりうすとまも  
すやよつてひきあはつて古人の音代をひかへ

秋、す穂むらる日より

藤原敏行胡に

あはれく日よりやまくはれむせのあをひきうしゆふ  
そよきのうべ表すはひきうしゆふはれす。穂むらる  
角ふわよ。すくはれす。風のアト。くふるくまくうくは  
いづかふかす。おもんぐくす。おもんぐくす。まく  
てやし。さよ。おもんぐくす。おもんぐくす。まく  
まく車とまく車と。おもん日よりまよさざりくす。ま  
く車とまく車と。まよさざりくす。まく車とまく車と。  
くまよさざりくす。まく車とまく車と。

冬

うすしと仰はゆてまきまき 級世之

おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。

寛平以時后のうのう合ひて  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。  
おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。おもんぐくす。

大の本草ハ、る後ろへとのまゝ、わのくのまゝう、ゆゑく  
わと不審トテアリ。もとて、そ一べきのひよヌズモ、  
福うも、あたつてんスズムシトテ、もじやういきとも行ひ、  
もとペハトと書うんとするよ。よ／＼多くをう事辨へ  
すら、もふつて、もつて、もとあよんは／＼し。のと/orハ  
名ハ、りづしまさきゆうよ。今この事辨ちまうとして、  
よどや／＼と、もつて、もとあよんは／＼し。のと/orハ  
今「一」トテ、もつて、えゆるまでうすハ

論語、歲寒然後知松柏之後彌也。彌凋と謂て、  
之誤と謂て、きと。之え、もつて、もと自お似て、うの倍孫淮海近誥、松

柏貫四時而不改柯易葉其不彫者以萬物之彫而見  
之也。君子合治亂而不政節易行其不变者以小人之  
變而見之也。而實之有以但詰のうして理よりと  
考の道、もつて、もとさればの考ととの意、もとそくば上と  
も委々々々々如く。ねのこよほれ考みのうとせん。もと  
かく、ばくと云て詰し。もつて、もとづくつきて、實りまく  
と感づり、ざつと情のあつて、易きられた。の考の如き  
他木あれどもとて、ねのこよほれ考みのうとせん。もと  
も、もとあるとて、ねのこよほれ考みのうとせん。もと  
かく、ばくと云て詰し。もつて、もとづくつきて、實りまく

後世の注のやきよまといひ、又うきすりよしとてハ極うじやうん  
みうとーとれ注り下へにあふ小人のあひ取て解うと、考  
のまとうがうめへてハみ次その教もアシテ探者のうを  
いよせんがうよと小人のよとさんをとまふと、そくばく。  
小人よ焉うと常はまうしをがくぞりのぬしきこみうもくと  
ともういて焉うとがくぞくとあーのまつわで自謹の視  
若実のあーのとくぶくを首づまうんとす人自うづく  
えをあくまかんとほとほとあーても才人あうんと云  
歟トてすぐんがむをとのもうまうまうす事へがれ  
うちゆうわくよとひきおじきを自う無と歎うらぐめ

さるかく時よりてゞ地とあし神のひも争うとせ男めれやと  
えわくめ。僅きよ士のひとこ處うとくがしを人とあうと人望  
うれきあくしのとあ事よくふう金人びとひてうく歎を  
と要うひて、羨もくぞくとあうし、すらハつうう  
れをとつよ。うハ羽よひをとくとあうなまのつと情と取  
そひあくく時よりてくとくとくとくとくとくとくとくと  
くよあて是あくらひ三事つゝうくとくとくとくとくとくと  
せくとんあきよまくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
だんじのりひととば萬歳の主のひくよもくとくとくとく

さうりてやうて御衣をうへてあがてをとお玉  
 ひくよもとむ作怪と傍よしんとさんとハシ  
 每とテアハんまての内よへり罵るよあとを  
 す。あざりて懊惱する事のれどもわざとて  
 はと良のてひのたびに事へか内トのうて人を  
 そそりとあつて改め事へす人の内を入かく自ら改  
 めりとまつてはりあつてかくはなねてれり  
 虞うべしとて夷國人のてくらうつまてからて道く  
 きばつうすうりてとさうりれりへりとくげくらう  
 神のぢくもひとれあまるとまうりてのをやとく若

ああと笑國人の聲とくまてと味事の聲よりと人  
 机事ウミ。聲をきのわの半は廢へりしき様うらしと今と那人  
 の仰くわくとがるくととくわくとくわくとくわく  
 ま。されどうすりとあとのて大ききととくわくとくわく  
 かくをとあづ方、左と角とあくとくとくわくとくわく  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 国事ウニ。あくとくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

す。或はよろこびのうきをもたらす人とすま。別あくを  
さうひととすま。人とおつきよひ。そぞりてせまふ初とく  
手を取組よておとく。かううとておとく。資ひ。しゆふ。の  
方よりてらしててもかうし。を通用り。すまひ。の意つ尾が  
ち。細とまづく。おと。彼と。すま。か。意人と。おせ  
や。併わり。又今。そむき声と。おとけと。ひ。根する。君が根る。も  
まうす。か。他<sup>五</sup>と。止て。まの恵。ようけ。例あり。みとまひ  
とく。多る。おと。き。の。有。一。う。は。ま。と。ど。お。う。も  
理を。う。キ。賞。す。是より。それ。の。行。を。と。せ。後。世

うどもおとーわい。巴里さんをねくと君こむてそやふ

あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。

あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。

あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。

あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。  
あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。  
あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。  
あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。  
あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。

旅羈

少くいりをうやうまでくあー枚と身とでせつふ。食くま  
まきてまむとんぬまく

男女すつとも他の國へゆりきふ。旅りつらて男尊まく  
なまは女入まゆりきる。序のふくときてます。

あきひす。佐友のさんをつひう。オニラフガラクねう。

先を夫さがうして一人ゆく。きびれめうりう。居のなまう  
やかのアと今く。ゆかう。夫婦連うてあすりくんが夫  
ウルくと。うれきでゆくん。うれを雲井もく。うれ  
い。夫はうれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。  
アとまき。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。  
ときのんをあじかし

おー。おー。

唐人よべ

うきすりともうきすりともうきすり。うきすりして  
うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。  
うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。うきすり。

あらゆるまことにわざとばかり思ひやうへやまねをすれ  
あらううふひきとつてよ。けさの夕方、テうとのう方  
こいつはゆゑをかのうふとつてよ。うへゆうどりを

歌一束

生忠岑

五あけのつきくへてしワルより曉ぞりくまのとねし  
是ハ女のすみれまく園むすをきまつづり停車す  
ヨシのすまきゆう月と有明の月とづきすふ、月と有明。  
てつられあづきと月と有明。うつとまくスリとハマムヤア  
まきいじぶや月の音とゆくしやすふあづきと月と有明。  
まきいじぶや月の音とゆくしやすふあづきと月と有明。

たゞを見もううさうもとふらへきゆうふはくあくちうく宵  
てふとさうとづるまく今とつれ人とくまく。今うとまくの  
月とつとゆきくゆきの時とつと。まひひまくとまくと  
をくとまくがくを布とくとくきよ。きゆ月れあくちう  
まくちうくとせし語とくとく。とくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



のうごとアラモギヤツシのまきをもんじてし

ひ喫ぢりんよるがアラモギの甲斐アラ。

急毛でアラモギ席をもんじてアラモギの

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

下雜

アラモギアラモギアラモギアラモギアラ

夫とつちだぞみ人

さうううううを神にすすめられさせあた庵はせん  
とまくも神の御の庵のあうううん支度無風  
たまうううの庵えらきばまびつゝもあまうりま  
とつとまうその人とつゝとからとんざすすりまし  
きまどたひ小町せきほびひくわくもうまきま  
うれをまよつてもやうとまくさんまうのゆくはづく  
ぢまくてもよしよくまう人まちよたまうふくらう  
ぐのゆとひまひるまうまうまうまうまうおぐづく  
一石小町をまくつてまうゆうて行こやうくまうまう  
まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

鳥す人とまくわあらたまきまくまうの小町罵れつれ  
がまうれのうすむわうの帝よりとあまくとまく小町  
のまれあまくわうとせんがうじまく八年七十及びてまく  
ハニタリ侍考くまうのをつけりてやしきしめい／＼  
食くまのまくはまうりしてやしきしめい／＼  
ものとれも今比乞食うとまく小町が階小町が階と  
後櫻原うとくわうくわうけうた人まくわうとや。とハ  
辛苦れもあうくわうくわうけうた人まくわうとや。とハ  
う人々のまくひげまくまくまくまくまくまくまく  
すとせよびづくじたまくまくまくまくまくまくまくまく

まごんわくあくべきこまくさうのまこと無やまく人い  
ふうきりん。でやまびくちもとでじづくがはる  
まみでく。あくすくべ滑りん後の人に義をかくし  
うきゆくをすりやまらわん船もせうて。うきゆく  
と見ゆきてよ。難舟のあくひまくへ車壁りしも。うきゆく  
人くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

歌ノ大意下流

追つきてよ。まくはくまくはくまくはくまくはくまく  
古今長歌の例

まくは萬葉集するよ。よひてともじべー。古今集よりうきゆく  
うきゆく。おもてくわくわくわくわくわくわくわくわく  
りくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
じまなうりまくわく。おもく達くおうまくまくもく  
うきゆく。まくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
おもくもじゆくよ。おもく達くおうまくまくもく  
とくもく。おもく達くおうまくまくもく。おもく達くおう  
ひともく。おもく達くおうまくまくもく。おもく達くおう

タとアヘヌキドギミ。とく今アリホガシモヒトク萬葉集が  
 る中アヘヌシル調とテビ。ホモホシスモテシ。調アヤヒキ  
 ラサカシムカタキキキアス。アガラ系集ハシのヨキナリトヨウモヒテ撰  
 ハ完セキ。アハキアキ。アキアキ。アキアキ。アキアキ。アキアキ。  
 しの身の中アヘヌシル調同拾キ。音エビ取ム。シテ見  
 ておアシル。アレモアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 リハシテモシのヨクハアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 リハシテモシのヨクハアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。

ハトニシテアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 序モハシテアリ。モモ序ナハ例テアシラム。アシラム。アシラム。  
 アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 記モクシテアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 マシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 脱緯雜詩。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 ムカヒヌ文弘傳。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 トシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 ハシテモシのヨクハアシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 人。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。  
 ホモホシスモテシ。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。アシラム。

々と植えうるゝ引物の如きを取むるやもとんじておちゆる相手  
 へりや。その都ひはあくよのれまのうちづる所の如くがまのあ  
 いがけんしも。おとへをもどもとくわざ。又樹のむとわく人を極め  
 周うで達ふうをも樹のむとくとくも。今へばそゝ樹をも  
 おとへ二句よすせすり。枝拂ふと木のむづくはぎもわいど  
 もと樹のむづくと木の木をもくとくか  
 よア、旋ひう。お名わら。舊冠。輪色早の木の木をもくとくか  
 し。附錄雜詩の歌ふくとくと木とくとくと木とくとく  
 一日郎人のよふくとくとくと木とくとくと木とくとく  
 一と古今集の密<sup>スカタ</sup>をとひ今。うと今まとぬじ人とく。だひよす

おうきをとて有りたゞ。か人のこちく古事記とまみびて後  
 父もあひべくとどきても大も古ふゝにいふんとくとく  
 おうもも甲斐をとんとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 ぬくりうらとつ。教えうべくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 あれ、うるそふんとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 誰れぞとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 えひづかうで。おうと傳せんとくとくとくとくとくとくとく  
 まの朝と古事記とあるとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とく

傳すべからと口説。テラトモアリ人つひとんまふひと  
人全似うて吉怪うて。おととすとぞ事すまへ。と田下根の  
怪しきを語り。とて人のよれまく、とさりゆすわ。  
をたゞ印下形うしも教の事、省め。おととすと  
かずしきゆともひ設け。おけりきみのやくも。とくとくま  
むとてがづく。やまもひとびと。今見よとほんとて。  
金粉と墨とせどあま。かねまくとよもえまくわ  
む。朝氣にて。古人の事。そんとて。そく。人帝と萬葉  
のぬ。とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

傳すべからんと。とぞありうん。意つと詞を。

アセラガの木大樹の工房。アシテス。とよ長伴の。ナガヒ。松平親年  
君の。アシテス。まわらしき。アシテス。おち。すも。アシテス。セキヒ  
タクナ。株の。アシテス

書ふと。とおワケ。アシテス。小矢。ち。う。と。おと。月。う。那  
み。う。人。と。お。アシテス。ん。ざ。と。く。く。く。と。ぞ。と。一。首。の  
手。アシテス。と。そ。お。す。と。御。つ。れ。と。お。手。アシテス。お。う。と。一。首。の  
手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。  
と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。  
と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。と。お。手。アシテス。

み二首づき。猶まく人のいふ事の如き。北山。は  
まをす。夜うすやまかり。うらはすれど。ゆく想沖が持  
ち。すすり。けよと。すくべく。さく。情す。し。山  
の事。たゞひく。と。すく。ばくやまのさんを  
と。うるま。きめりた。

あじよ。す。脚アリ。と。す。ひて。ほく。今れぬにき  
ま。す。す。席よ。う。め。く。ゆ。う。き。の。す。と。も。一。ほ。く。ふ。  
う。す。す。う。ぎ。ハ。伝。と。宣。ひ。テ。サ。ク。キ。碧。水。君  
あ。け。や。と。う。ぎ。と。や。せ。や。風。ふ。し。ら。と。す。る。れ。や。人  
三月。の。脚。破。す。す。ひ。う。表。脚。底。の。地。る。よ。山。の。場。わ。く。月。破。す

ほく。抑。り。だ。り。り。と。え。ま。ひ。で。す。す。も。ひ。る。

す。き。く。そ。む。と。す。き。も。と。と。う。う。つ。は。ほ。し。う。の。月。な。け  
お。い。う。れ。す。う。の。う。月。な。け。一。じ。あ。よ。え。つ。あ。の。月。や。う。と。も。  
も。あ。げ。あ。や。き。お。う。よ。う。つ。と。れ。そ。り。て。く。き。も。  
あ。全。よ。う。脚。ア。リ。ふ。ら。く。す。れ。て。す。ぐ。る。頃。は。ゆ。ひ。  
か。う。ぐ。ら。玉。風。ぐ。と。と。ア。う。り。れ。と。脚。す。く。は。す。ハ。ま。  
す。き。う。と。る。ま。わ。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
あ。く。す。じ。と。き。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

雨。く。よ。す。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

脚。ア。シ。ハ。る。ア。シ。ハ。る。ア。シ。ハ。る。ア。シ。ハ。る。ア。シ。ハ。る。ア。シ。ハ。

是へゆけしに脚立りてまつりととも金花茶  
えびすうらはりしよの事とすもうりゆけを

又の年をすすへて改めむれひおを加ひる

さうんあつすとおりひでまうんがえほやうけま

せきゆく時ちかく今とぞ不うちよもぬきる邪

古東紀と譯けりく時當今れせのあましゆどある。今

ああゆくひかくふ守神祇懐舊のうと義表

浅井玉木十鈴川ありしまへ聞いづねく

くひかぢりくとふ人まきてびしまだあく

又のアヒヌチのをのむ石ぐさきし侍りくふ入り

う草やあきをやうせふれとさくとさくの床すくしめ

アトちよアトへ夏今とるもく多き火處ぞキラウリす  
アトアトひまくうかとおひまう山のうのアトも

春夏もくとくうきうち

アトちよアトへ夏今とるもく多き火處ぞキラウリす  
アトアトひまくうかとおひまう山のうのアトも

春風もよのれをよめ風きてうるぎも立さず

恋歌ハス全ヤテトキアシ

けとつとすとせ井の水たてとまむ門口やあらうと  
すり墨とととわととく一レアツ等のまやまひつま  
あらうとととわととく人とおれあがれとけりとくとく  
ひきとととわととく人とおれあがれとけりとけりとくとく  
と二首とて今よ後のくはのくもせあがりうどんをもじる  
と二首とて今よ後のくはのくもせあがりうどんをもじる  
けりびとととわととくとけりとけりとけりとくとく  
えあやーとくのかよどく。おれねうゑとあうか

今約レルを寄てとくの庵とわ。おれ風やおれやけに  
是翁玉竹と能活よわ。おれのふれあとて。じぎ

周ト時通り形童子侍事とづとくとく  
立ててとくやとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

う人のえとひてとくとくとくとくとくとくとくとく

ノリ用よまうひつらどり、おまくさうもとうくせらつゝさん  
、うるん山のねぐと、うと多くる代とすとみだよりをや  
、僕とくとくまみの事と、まとどもらまうん。おうくのをまうひつ  
ちとの方おうすれ情へりて、実うしもうと、僕とくのちうへ  
あり御あまうすひひたりくよ。京のあぐへのとて、あにとす書  
あらわす、とくのすか。うきうちがちはうすく、ありうくとくとくのと  
わよらむのとくり、人へ夷のゆすまくさくとあきりとひ  
り。すく、書やすりとて、僕文よ  
おまくさうりうあくして、おまくさくとゆり

け、すく、書えふ表と見、金脚革とて、書て、物うね。おへくとお金  
いり、し。と、入しでまく遇あぬ人」と。やじとて、とくに  
うると、けり、うじ。おまくさくとくらむひき。女のうまくかえ  
えあく、を、とて、のうじ。おまくさくの、おまくさく、(き)事情  
うりする人の元より、秋せ月十日をうり。うりれぬ。お野アリ  
、お色とて、おのまく。おまく、うじ、おまくさく、  
うじ。おまくさくとく、入まくとおが、おまくさく。  
おまくさくは、つうへうじ、おまくさくと、おまくさく  
、おまくさくとくとくと、おまくさく。

○哥乃大意下

人をよそうんすうとほづらうめくらはく

いとまよまよとすくよと立葉落のまよあら

ととふとてとてとてとてとてとてとてとてとて

移りかわせれ小さなまわらあとあがまとももーあせらむ

くらわやーきーとーとーとーとーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとーとーとーとーとーとーとーとー

カミ。おとおとととととととととととととと

弘化二年十二月

長野義高

## 後叙

欲乗わづ大御園れ吉良乃あやひとてみ  
ひせじ情かに木草にふとひさんと感ト  
すひきものと凡せ方中にあれ人ひ  
ぬうく思ふとばひひがせらよ鶴川比  
美れ深とあいちすかへてあらよみあぢ  
といいもけるとま神れせ代りゆりて

いはりまよひうべ代の後までかかる  
または道なりうりそがすこしよる  
世のをほそまほよ實ふくまぐくも  
あつて放ひとどおれづくみにせぞく  
さけづくまかと直きせふつみて  
人の情もぐくく成らまにわらわれ  
まなむひあじふ方にめあらひう

柳葉の深い人思ひの境ふくとそれ  
ままと育むさうの情ゆるもゆく  
えいじやれうにうち常れ心あらひ  
乃え歌つもねあまとまつたまつも  
さへまよふとめんく洞くふとの  
つともうつたれづくひさづくはま  
すもと歌りあふとねりづく長野の人

常にうざれぬひうらげふるころに教  
きとしまあわまうめまといひて  
あらじゆがくいもくま令羅及法語の  
梨ふくもいとしむ様はばび詩此  
ほりひがくどふをすだらく酒ぢく  
むれありて跡へすと道をさしむちる  
くわぢやへりうもあふて今しづの

かくも林とあき二巻あつて猪ふれ春  
うづらむよしせうだれ中にありて教へて  
ためぐことをけはてそぞつひ小せ二巻と  
写りの酒あくやうし北斎のつに情娘  
うれすばわづようましにゆきとあめ  
しまことせんやとあふれむひとすにいり  
人れゆざうりとしゆりとくづくふあにあ

とくにうつこにかくさん

おのぞばくめり代り曉もて

かうてよしよ道れまよゆ

弘化のとせふ其の十日つちうの日

鴻村紀者

きつねのむかわきこもり、あきらめくちく  
て立ゆきて園をたまよそへてさり大  
なうん、うそしまやみのうのうそ  
くさりよひゆりつるまふぞひつん  
多くとよあすきのらぶくよゑゆ  
てわづれどもひゆひとはうるさ  
ときよこのからしきそつ

桃色含め妄跡の人人を

皇御國のをとむりて庶へりのまゝ  
 ロアリ遠く神代のアモトアラム今れつ  
 トアリキ無事トアリシテハシトセハシ  
 諸人トキツヒシテシテアキリヨマのせ  
 や、シテのミハトニシハシ人アリシテ  
 キリ人アリサルナアリトシラヒトシスン  
 ミハジハシトマリシテシハシモタカヒ  
 モヒの徒ガルヒシマシトシテシテス

ちもく立ゆる有はまみねあやまち  
 れら立く立りきひのうかたふ  
 鳥村紀名のうのせきとよひてま  
 一モトアリよあくらくにテテテテ  
 なき筆にて書かれたけりおひじけ  
 とうとい梓ふとモアシテモトカケ  
 ヤシタクモアリシキアシマシラヒ  
 のわくれまアヒムヒムアシマシラヒ

まくあはれ人をよみんものい  
さのあまうふはるをすりあつとおのえのま

すもとひでこまとうもじ

高き木へとよ

伊吹山下

松画食わく

お盆行樂おもてぎやくのぞむ

お盆忠旅

お盆忠旅おもてぎゆのぞむ

# 桃迺金口藏板

活語初乃梨出板  
未分櫛附錄近刻  
通路街乃梨同

標假字萬葉集同

